

地域医療の高梁モデル
構築に向けた100の
検討とアクション
～より良い連携を目指して～

市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化

001
002

医療機能における役割分担を検討します。

市内医療機関の関係者等を交えた高梁市医療機関連携推進部会を年4回開催しました。

その中で、高梁中央病院、大杉病院、成羽病院、たいようの丘ホスピタルが各病院の強みについて報告し、市内4病院の市民向けPRの内容を取りまとめました。

高梁市内病院の役割分担

急性期

高梁中央病院

- ・高梁・新見医療圏の地域がん診療病院及び災害拠点病院
- ・消化器外科、整形外科領域の手術を強化している
- ・入院での人工透析が可能
- ・循環器、脳神経外科疾患の地域拠点
- ・内視鏡センターが充実している
- ・急性期から慢性期までのリハビリ・地域包括ケア病床により地域と繋がる

➤高梁地域の救急・急性期疾患の対応

大杉病院

- ・通院時からの通所リハビリ、回復期リハビリを支援する
- ・グループ内の介護施設と連携して在宅医療を進める
- ・病院歯科により、口腔ケア、嚥下ケア、誤嚥性肺炎への対応を進める
- ・訪問リハビリ、地域包括ケア病床により地域と繋がる

➤主に高梁市東部の在宅医療を支える病院

たいようの丘ホスピタル

- ・高梁・新見医療圏内唯一の精神科の病院

➤高梁地域の認知症、精神疾患を支える病院

成羽病院

- ・公立病院としての責任を持った医療を提供する
- ・へき地医療拠点病院としてへき地診療を支える
- ・消化器疾患の専門医が多い
- ・訪問看護ステーション、訪問リハビリ、地域包括ケア病床により地域と繋がる

➤主に高梁市西部の在宅医療、へき地診療所を支える病院

西部

東部

慢性期

- ・市内の4病院では、各病院の特性を活かし、疾患に応じて相互に患者の紹介が行われています。
- ・限られた医療人材ですが、診療所からの紹介も積極的に受け入れ、また、入院治療後の患者は、スムーズに医療を受けながら在宅での生活に戻れるよう診療所（紹介元）へ繋がります。
- ・市内医療機関が相互に連携し、市内で医療が受けられる体制を整備すると共に、市外医療機関とも連携強化を進めていきます。

004

市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化

医療機関間での医療従事者の異動、出向・派遣を進めます。

平成30年度中に、診療所から病院へ
1名の放射線技師の異動が決まりました。

今後についてもより連携を深め、限られた人材が地域でより活躍できる環境作りに努めていきます。

018

市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築
市外の分娩施設との連携を進めます。

母子健康手帳交付時や市内クリニックでの妊婦健診受診時に、妊婦の方の希望する分娩施設を伺い、事前にその分娩施設と連絡を取るなど周産期医療の連携体制が整っています。

029

医療従事者間のコミュニケーション改善

030

職種間での交流機会を増やします。

031

平成30年度において、高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を3回、多職種連携研修会を2回開催し、所属や職種を超え意見交換をする機会を設けました。

また、平成28年度から平成30年度まで備北保健所が高梁医師会へ委託し、実施していた看護職のスキルアップ研修等の事業を、令和元年度は、市から高梁医師会への委託事業として継続します。この事業により、研修のみならず、看護職の人材確保、人材育成等に努めていきます。

職種間での交流機会に対する医師の参加を促進します。

在宅医療と介護の連携を図るため、多職種による研修会を平成25年度から15回開催しました。

これまでに23名の市内の医師が参加していますが、継続して参加する医師は、数名に固定化しています。

平成30年度が多職種連携研修会では、医師による働きかけにより新たに3名の医師が研修会に参加しました。今後も、より多くの医師等が参加するよう働きかけていきます。

多職種連携の改善に向けて情報共有のルールを整備します。

多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に高梁市内の入退院支援ルールを作成しています。

その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効に活用しています。

小児領域を含めたプライマリ・ケア領域を強化します。

妊娠中から切れ目のない支援体制の充実に向けて市内の産科医、小児科医を含む関係者・専門職で高梁版ネウボラ連絡会（母子保健連絡会）を設立しました。

今後、出産・子育てサポート体制の整備に関する事項は、本連絡会で具体化を図っていきます。

教育機関による卒業後を見据えた研修の取り組みを進めます。

吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校では、高梁医師会と連携し、「看護の魅力ガイダンス」を開催し、地域で働く医師や看護師等が授業を実施しています。



041

医療従事者確保に向けた連携強化

岡山大学医学部地域枠卒業医師の獲得を目指します。

平成29年度から高梁中央病院、平成30年度から成羽病院で岡山大学医学部地域枠の卒業医師が働いています。

さらに、令和元年度から新たに高梁中央病院で地域枠の卒業医師が配置されました。

043

医療従事者確保に向けた連携強化

市内大学等で地域医療の魅力を伝えるカリキュラム等により市内就職を促す取り組みを行います。

吉備国際大学では、市内の病院や市と連携して学年に応じた地域実習カリキュラムを組んでいます。

順正高等看護福祉専門学校では、平成30年度から地域への愛着心を育てるため高梁学を開始しています。また、令和元年度から成羽病院に加え、高梁中央病院、大杉病院でも実習が始まります。

044

医療従事者確保に向けた連携強化

市外の医療従事者養成学校の学生に向けても
市内医療機関等が一体となりPRをします。

平成29年度から市内4病院、高梁医師会、
市が一体となり、市内外の医療従事者養成学
校を訪問し、看護師確保に向けた働きかけを
行いました。

H30. 4. 18 吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校、
岡山・建部医療福祉専門学校、県立真庭高等学校、新見
公立大学

H30. 4. 27 岡山県立大学、川崎医療短期大学、倉敷翠松高等
学校、倉敷看護専門学校、玉野総合医療専門学校、旭川
荘厚生専門学校

045 医療従事者確保に向けた連携強化

049 市内で働くことの魅力をPRします。

平成30年度に高梁医師会が、市内4病院と連携し、看護師募集の商業的を作成しました。

現在、高梁医師会のHPへ掲載されています。

また、平成30年度に市奨学金貸与者等を対象に市内4病院の見学会を開催しました。

048 医療従事者確保に向けた連携強化

052 市の奨学金制度の普及・改善に努めます。

市内の大学等では、半数以上が市の看護師等養成奨学金制度を知らない状況です。

平成30年度から新たに吉備国際大学や順正高等看護福祉専門学校から合格通知を送る際に市奨学金パンフレットを同封し普及に努めています。

また、市外の医療機関へ就職しても5年以内に市内の医療機関等に就職する意志がある場合はその間、返還を猶予できるように規程を改正し、利用しやすい制度に改善しています。

060
064
065
066
067
070

子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備

出産・子育てサポートの充実に努めます。

市内での分娩施設の設置は、人材確保等の面から困難な状況ですが、妊産婦健診等の周産期医療は市内クリニックで提供しています。

分娩時の搬送では、県内で初めてママ・サポート119という消防と連携したシステムを整備しており、ほとんどの妊婦さんが登録されています。(H27.1~H31.3.31の期間で登録件数は633名で、救急搬送件数は40件)

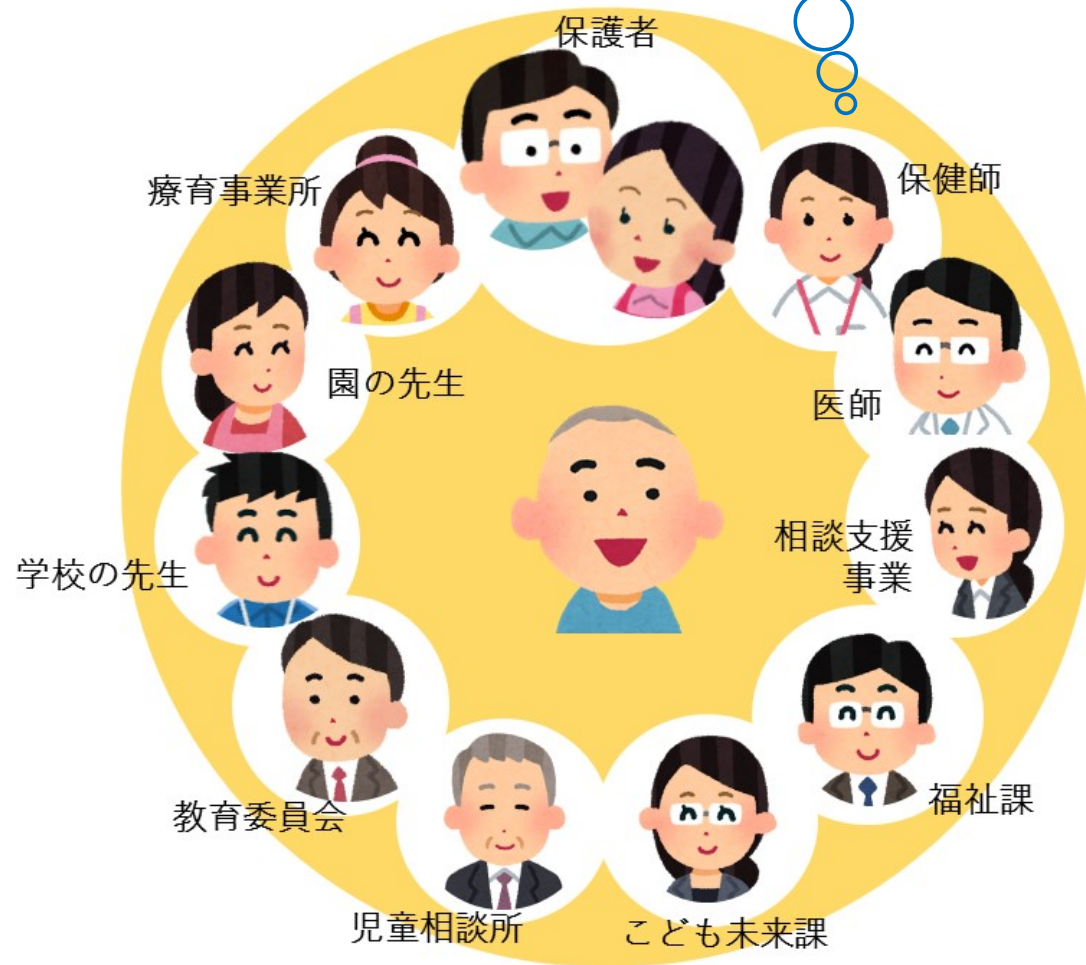
その他、妊婦相談、保健師の家庭訪問、スクラム作戦などきめ細かいサポートを実施しています。

スクラム作戦とは？

関係者が手を取り合って、
市内の子どもの発達、成長
を惜しみなく支援します！

支援を必要とする方の成長・生活を保護者、保健師、所属園・校の先生、福祉事業所などご本人を取り巻く支援者がスクラムを組んで連携支援することです。

ご本人の真の願いを支援者が適切に受け止め、それぞれの立場や役割を話し合って横の糸と縦の糸をしっかりと紡いでいきます。



子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備

出産・子育てに関して、受けられるサポートや利用できるサービスをPRします。

分娩時の搬送を行うママ・サポート 119をはじめ、18歳までの医療費無償化、各種母子保健施策・子育て支援サービスにより、母子保健活動を通して、妊産婦や子育て世代から市内のサービスについて不安が少ないとの声を多く聞いています。

妊産婦の安心、安全のための取組みを、市HPや広報紙、行政放送等を通じて、幅広い世代の市民の方にPRしていきます。

072 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
073 医療が担うべき役割を関係者で共有するため、
089 研修等により在宅医療の周知啓発を行います。

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会では、
多職種連携研修会を実施しています。

また、在宅医療に関係する専門職種が職種
別に研修を企画・実施しています。



H30.11.9「わが街健康プロジェクト。」を知らう！



H31.2.15「地域の認知症の現状を知る」

074

教育機関が医療機関と連携して行う取組みの検討を進めます。

吉備国際大学や順正高等看護福祉専門学校への市内からの入学者は非常に少ないのが現状です。今後は、市内の高校と協議の場を設け、両校の教育環境等の魅力のPRに努めていきます。

また、吉備国際大学では、介護予防事業、市内の小中学生を対象とした医療現場の模擬体験など医療機関や市と連携した取組みを実施しています。

075

情報共有手段として「やまぼうし」の活用を進めます。

本市では、患者さんの同意のもと医療情報を医療機関や施設で共有するためのＩＣＴツールとして「やまぼうし」を活用しています。平成３１年２月末現在で２０９名の方が登録されています。

活用している事業所は６８事業所で、２２台のＩＰＡＤを無償で貸出しています。

今後も、活用事業所を増やし、患者さんの医療情報を関係者が共有し、連携しやすい環境整備に努めていきます。

077

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化

078

職種間での交流機会を増やします。

079

平成30年度において、高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を3回、多職種連携研修会を2回開催し、所属や職種を超え意見交換をする機会を設けました。

また、平成28年度から平成30年度まで備北保健所が高梁医師会へ委託し、実施していた看護職のスキルアップ研修等の事業を、平成31年度は、市から高梁医師会への委託事業として継続します。この事業により、研修のみならず、看護職の人材確保、人材育成等に努めていきます。

多職種連携の改善に向けて情報共有のルールを整備します。

多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に入退院支援ルールを作成しています。

その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効に活用しています。

095 住民目線に立った説明の強化

096 市内の地域医療の実情を市民の皆さんにPRし
097 ます。

098
099 高梁市医療計画を平成30年5月に策定しました。
101 計画の内容を平成30年広報たかはし6月号で特集
103 を組みPRするとともに、その際に開催した座談会
を吉備ケーブルテレビで放送しました。

平成31年1月27日には、平成30年度医療・
介護市民公開講座を開催し、第1部では、在宅医療
の普及啓発として、在宅医療を支える職種による寸
劇を行いました。第2部では、市内の病院紹介とし
て、今回は高梁中央病院が地域がん診療病院の役割
や病院で対応可能な医療について病院スタッフが説
明を行いました。